

4 膨らむ財政赤字

◎ 増える公債残高

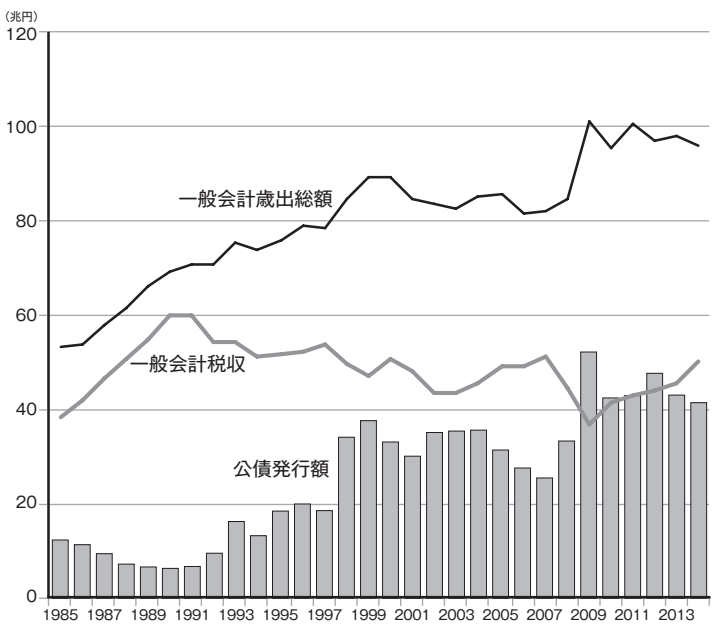
日本の借金漬けの財政運営はもう50年も続いていきます。次頁の図3-7のグラフをご覧ください。税収と歳出の差がますます大きくなり、グラフはその形状から「ワニの口」といわれ、借金総額が毎年増え続けています。国が国債を発行して借金をするには二つの方法があります。建設国債と赤字国債の二つです。

建設国債とは道路や橋を造るために借金をするものです。私たちの生活でいえば、マイホームを建てるために借金をするようなものです。そうした施設は後の世代も使用できることから、建設国債の発行はある程度許されています（財政法第4条第1項ただし書き）。

赤字国債とは、あとに形として残るものが何もないタイプの借金です。家計にたとえれば、借りたお金を酒と博打に使ってしまうような借金です。もちろんこのような借金は好ましくありません。だから赤字国債の発行は財政法で禁止されています。それにもかかわらず赤字

国債が発行されるのは、国会でその年度限りの新たな法律を作り、特例として認められるからです。そのため、赤字国債は**特例公債**ともいわれます。しかし、毎年毎年「特例」というのもおかしな話です。

日本が最初の国債発行に踏み切ったのは40年不況（1965年）のときでした。政府は昭和40年度補正予算で総額2590億円の赤字国債を発行する特例法を成立させました。翌1966年度からは建設国債が毎年発行され、1973年のオイルショックのあと1975年度からは赤字国債もほぼ毎年発行されるようになりました。とくに、バブルが崩壊した1991年（平成3年）以降、



3-7 一般会計税収、歳出総額および公債発行額の推移（財務省 web サイト資料より作成）

4 国会とくまじり

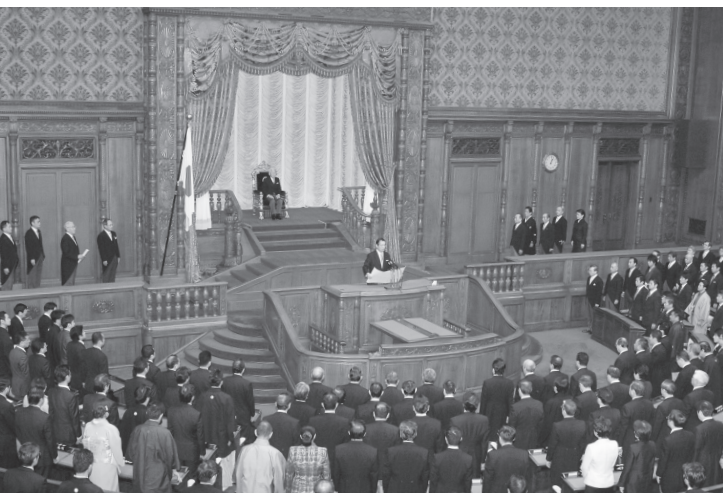
◎ 国会議員の1年

テレビのスイッチを入れると毎日、政治に関するニュースが流れています。まずは、国会議員の1年間の生活リズムを知っておきましょう。教科書的にいえば、国会には**通常国会**、**臨時国会**、**特別国会**（衆議院総選挙後30日以内）の3種類があります。このうち、特別国会は衆議院が解散された後、首相を選ぶために開かれる国会ですから、文字通り「特別」な国会で、2〜3年に1度開かれるだけです。そのほか参議院の**緊急集会**があります。これは1950年代に2回開かれただけで、ほとんど開かれることはありません。普段、私たちがニュースとして目にするのは通常国会と臨時国会です。

通常国会は毎年1月に召集されます。国会の開会式は天皇の臨席の下で参議院で行なわれ、衆議院では行なわれません。これは参議院が戦前の貴族院の流れをくむことに由来します。参議院の議場に衆議院議員も集まるのですから、議場は立席の人もいてぎゅうぎゅう詰めにな

ります（写真6-3）。ついでにいつておくと、国会を「しょうしゅう」するときは「召集」の漢字を当てます。これはもちろん天皇が召し集めるからです。一方、県議会を「しょうしゅう」とするといった場合は「招集」という漢字を当てます。

1月に国会が召集されるのは**予算**を審議するためです。日本の会計年度は4月から始まりますから、それまでに予算を成立させなければなりません。もし、間に合わなければ内閣の恥とされます。もちろん、予算以外にもたくさん法律が審議されます。1月に始まった通常国会は会期が150日と定められており、1回だけ延長することが認められています。ですから、通常国会は6月頃まで開かれます。



6-3 第189回国会開会式（於参議院：衆議院憲政記念館所蔵）